

# 2013 年度 センター試験 倫理 (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：38 問
難易度の変化（対昨年）	難化 やや難化	変化なし やや易化 易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし 減少
出題分野の変化	あり	なし
出題形式の変化	あり	なし
新傾向の問題	あり	なし
<p><b>総評</b>                  昨年比で、大問数は 5 から 4 に減り、解答数は 38 で変わらず。青年期に関する独立問題がなくなり、現代社会の諸問題・現代思想問題などと融合した（この意味で「出題分野の変化」あり）。組合せ問題が 8 から 10 に増えた。倫理・政経とは、大問中 3 問のリード文が同じであり、問題も一部が同じである。全体的には、細部を問う問題が増え、選択肢を丁寧に読み取る必要も高まり、やや難化 傾向にある。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	情報技術に関する対話文を素材に、現代社会の諸問題・青年期・人間論を総合的に問う。	28 点	青年期の心理・人間論・現代思想（エリクソン、マズロー、マーガレット・ミード、ユング）に関する細かい知識が問われ（問 3, 5, 9）やや難しい。なお、リード文は「倫理・政経」の第 1 問と同じである。
第 2 問	悲しみや苦しみを中心にしたリード文で、源流思想を問う。	24 点	問 3, 5, 6（ブッダ、アウグスティヌス、イスラーム教）は各選択肢を丁寧に読む必要がある。問 8（エロース、フィリア、アガペーの相互比較）はやや難しい。
第 3 問	「理」をキーワードにした日本思想の展開を示すリード文で、日本思想を総合的に問う。	24 点	問 5, 7, 8（江戸時代の合理的思想、北村透谷、西田幾多郎）は、受験倫理ではマイナーな箇所が問われており、やや難しい。なお、リード文は「倫理・政経」の第 2 問と同じである。
第 4 問	「批判」をテーマとしたリード文で、西洋近現代思想を総合的に問う。	24 点	問 3, 6, 7, 8（百科全書派、マルクス、ハイデッガー、西洋現代思想）では、細かい知識が問われており、難しい。なお、リード文は「倫理・政経」の第 3 問と同じである。